

《履修上の留意事項》面接授業と遠隔授業の併用実施

「英語論文講読」では、英和辞書が必携である。「ステッドマン医学大辞典」の入った電子辞書の購入を奨励する。

《担当者名》○福田真二 田村至 西澤典子 榊原健一

【概 要】

4年次の科目「卒業研究」における研究をするための基礎的な知識として、研究のデザイン方法について学ぶ。具体的には、言語聴覚学に関係する各領域（失語・高次脳機能障害、言語発達障害、聴覚障害、発声発語障害、摂食嚥下障害）におけるデータの収集法やデータの処理（統計）及び分析の方法について学ぶ。

また、言語聴覚学に関係する英文論文を講読する練習を行う。

この科目は、将来、大学院への進学を考えている学生にもお勧めの科目である。

【学習目標】

研究をするための基礎的な知識を身に付ける。

1. 言語聴覚学に関係する英語論文を読める英語読解能力を身に付ける。
2. 研究の科学的方法の意味を理解する。
3. 研究のデザインの立案、データ処理の方法を身に付ける。

【学習内容】

回	テーマ	授業内容および学習課題	担当者
1	ガイダンス	科目の概要、学習目標、講義日程、学習内容、評価方法、課題、推薦図書、学習の準備、オフィスアワーの活用法等を理解する。	福田真二
2) 6	英語論文講読	言語発達・言語発達障害に関する英文論文を講読する練習を行う。	福田真二
7) 11	英語論文講読	失語症・高次脳機能障害に関する英文論文を講読する。	田村至
12	前半の総括	「英語論文講読」の全体のまとめ	福田真二
13	研究法 : 研究の方法	科学的方法とは何か、言語聴覚障害学における研究と臨床との関係、行動科学研究の基本、研究倫理について概要を学ぶ。研究における、変数の概念、独立性、従属性、要因と結果の意味と実例について学ぶ。 14 - 17回の講義で講読する論文を紹介し、研究計画法からみた論点を整理する。	西澤典子
14) 15	研究法 : 研究デザイン(1,2) ・記述的研究 ・分析的研究	・症例報告、症例集積研究の手法を用いる論文を講読し、その研究手法について考察する。 ・横断的、縦断的観察研究の手法を用いる論文を講読し、その研究手法について考察する。 ・介入研究の手法を用いる論文を講読し、その研究手法について考察する。	西澤典子
16) 17	研究法 : 研究デザイン(3,4) ・多様な研究デザイン	・生存曲線を用いた論文を講読し、その研究手法について考察する。 ・診断法の感度と特異度を研究した論文を講読し、その研究手法について考察する。 ・メタアナリシスについて方法論を理解する。	西澤典子
18	研究法 : データ処理(1)	実際のデータを用いて、データの要約の方法、グラフの作り方を学ぶ。	榊原健一
19	研究法 : データ処理(2)	実際のデータを用いて、統計的検定を学ぶ。標本とは何か、無作為抽出、データサイズ、2種類の統計的検定の過誤について学ぶ。	榊原健一

回	テーマ	授業内容および学習課題	担当者
20	研究法 : データ処理(3)	実際のデータを用いて、統計的検定を学ぶ。2群の比較、t-検定、カイ2乗検定などの基本を学ぶ。	榊原健一
21	研究法 : データ処理(4)	実際のデータを用いて多変量解析の初歩を学ぶ。回帰分析、分散分析、重回帰分析、主成分分析について学ぶ。	榊原健一
22	研究法 : 論文の書き方(1)	論文の書き方について学ぶ。論文の構造、書式について学ぶ。タイトル、要約、序論、結論の書き方について学ぶ。	榊原健一
23	研究法XI : 論文の書き方(2)	論文の書き方について学ぶ。論文の中核となる、方法、結果、議論の書き方について学ぶ。	榊原健一

【評価方法】

福田、田村担当分：課題 50%

西澤、榊原担当分：レポート 50%

【備考】

教科書 : 対馬栄輝 他 編 「リハビリテーション統計学」 中山書店 2014年

参考書 : Damico, J. S. 他 編 The handbook of language and speech disorders. Wiley-Blackwell 2010年
 Minifie, F. 編 Introduction to communication sciences and disorders. Singular 1993年
 Kent, R. D. 編 The MIT encyclopedia of communication disorders. The MIT Press 2004年
 Foster-cohen, S. H. 著 An introduction to child development. Longman 1999年
 Gleason, J. B. 他 著 The development of language (9th ed.). Pearson 2016年
 Caplan, D. 著 Neurolinguistics and linguistic aphasiology: An introduction. Cambridge University Press 1987年
 Grodzinsky, Y. 著 Theoretical perspective on language deficits. The MIT Press 1990年
 Obler, L. K. 他 著 Language and the brain. Cambridge University Press 1999年
 Pinker, S. 著 The language instinct: How the mind creates language. William Morrow Company 1994年
 Jackendoff, R. 著 Pattern in the mind: Language and human nature. Basic Books 1994年
 Jackendoff, R. 著 Foundation of language: Brain, meaning, grammar, evolution. Oxford University Press 2002年

その他 : 適宜、資料を配付する。

開講日時が変則となる。詳細は、ガイダンス時に説明する。

【学習の準備】

福田、田村担当分：指定された英語論文を、講義までに必ず読んでくること。英語力のレベルにもよるが、毎回数時間以上の予習・復習が必要になる。

西澤、榊原担当分：配付資料を精読し、講義で出された課題を処理すること。毎回40分以上の予習・復習が必要となる。

【ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）との関連】

(DP5) 世界の、そして我が国の人口構成の変化、価値観の変化、文化や暮らしの変化、そして絶えず発展し続ける科学、そして医学。その中で私たちは常に人々の健康とより良い暮らしへのニーズに言語聴覚療法科学をもって応えていかなければなりません。その専門性をより広く、深く、科学的に追及していくために、能動的に研修と研究を通して自己研さんしていける能力を身につけます。

【実務経験】

田村至(言語聴覚士)

【実務経験を活かした教育内容】

田村至：医療機関での臨床経験を活かし、言語聴覚部門の英語文献購読を行う。